

手をつなごう2007

平成19年11月5日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 20

お聞きしたいです!

コーディネーター講座

講座2：9月10日(月)

岡山大学教育学部教授 柳原正文先生

「子どもの行動のとらえ方」



アンケートより

幼稚園 具体的事例や視覚を通してなるほどと勉強になることが多くありました。もっとお話をお聞きしたかったです。特に入学後の学習障害についてが興味深かったです。幼稚園ではあまり知らない内容でした。

小学校 短い時間でしたが、またまた大きなヒントをいただきました。学校に帰って広めたいと思いました。特にLDの読み障害の体験、こんなに困って辛い思いをしているのだととても具体的にイメージできました。今、1年生の子どもに対する支援計画を立てて、支援員や担任等と話し合いの場をもち取り組んでいます。具体的な有効なアドバイスをしていくことができそうです。

高等学校 まずは「わかりやすい授業をしていこう」と常に心に思っていくところから始めようと思います。校内的に他の先生方にどのように伝えていくか、同じ気持ちで進める先生の数をどのように増やしていけるかが課題だと思います。

特別支援学校 子どもの好ましくない行動に対する対応の考え方が3つ挙げられたが、とても参考になった。特に「計画的で一貫した対応」は普段できていないと反省した。その場だけの対応でなく、事前に教師間で協力しながら一貫した対応ができるよう、取り組みたいと思う。



講座3：10月22日(月)

ノートルダム清心女子大学講師 東 俊一先生

「子どものコミュニケーションの理解」

アンケートより

保育園 今担任している子どもの行動で大変困っている事がありました。今日のお話を聞いて困っている行動というのは子どもなりのコミュニケーションの方法だったんだと思いました。園に帰ってからじっくりと観察し、少しでも理解していきたくと思いました。

小学校 行動を冷静に観察して、何を伝えようとしているか、なぜその行動をするのかを子どもサイドにたって考える大切さがわかりました。

中学校 コミュニケーションに絞ってお話しいただいたことはとても素晴らしかったです。小中学校では、漢字の読み書きができるとか、計算ができるとか、「〇〇ができる」に支援者側が注目しすぎてしまい、社会の中でどう使うか、様々な人とどのようにコミュニケーションしていくかといった観点がないように思います。社会の中で生活していくことを考えると今日のコミュニケーションの観点を小中学校の先生方にもっていただくことはどうしても必要なことだと思いました。

特別支援学校 日々の実践の中で送信する側、受信する側がわかりやすい形でコミュニケーションをしていけるように子どもの行動を分析していくことの大切さを学ばせてもらいました。講演の中で出てくるエピソードが普段見ている子どもの姿と重なり、日々の対応の甘さを痛感しました。

次回お知らせ
講座4

11月19日

15:45~

臨床心理士

スクールカウンセラー

安東節子先生

心理発達検査
について

ご希望の方は
お電話くだ
さい。

0869-66-
8501です。